

子を見ながら協議をさせていただければというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長の気持ちも分からんでもないんですね。しかしながら、私が思うのは、韓国人観光客をたくさん受け入れたいという思いがあって、その中に旅行者の方たちが安心、安全で対馬に来て旅行ができる、何かあったときにはそこに飛び込めばいいという、そういった安心感があると、そういう施設は置いておく必要があるということを言います。

ほかに前例がないかも分かりませんが、前例ちゅうのはつくってからしか前例はできませんから。何とかそこら辺をしっかりと考慮していただいて、その、巖原のターミナルビル、入れるように配慮してくださいよ。

何かいい返事せんね。どうですか。よくよく検討して、いい返事を聞かせてください。副市長、よろしく願いしておきますよ。

もうこれで、市長の答弁もこれ以上出てきませんので、もうやめます。あとはいい答弁を、結果を見ておくだけですから、これで終わります。よろしく願いしておきます。

○議長（初村 久藏君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を2時10分からといたします。

午後1時53分休憩

午後2時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、大変お疲れさまです。改めまして、会派對政会の波田でございます。市長をはじめ皆様方におかれましては、連日の質疑応答のおつき合いで大変お疲れとは思いますが、私で最後となりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

質疑に入る前に、市長へお伝えさせていただきます。

地域住民をはじめ島民の悲願でもありました（仮称）尾浦トンネル、尾浦安神トンネルと申しますかね、工事の発注がなされたことに対しまして、クリーンセンター処理場誘致の約束事でもありました案件について、たくさんの喜びの声が上がっており、市長をはじめ関係各位へ感謝する旨の伝言を受けておりますので、この場をお借りしまして、申し添えておきます。

それでは、本題に入らせていただきます。

今回の質問項目としましては一つに絞り、本庁機能を有する巖原庁舎の今後の活用に向けての方向性について御質問いたします。

要旨としましては2点ございますが、まず1点目に、本市合併20周年を迎えようとしている今日、定着しつつある分庁舎方式での行政運営の考え方について、2つ目に、新庁舎建設に向けての取組や財源確保の計画について、順次お尋ねしたいと思います。

この案件は、旧対馬6町対等合併時からの今日に至るまでの行政運営の要である拠点整備について、過去の質疑応答の中から再確認していきながら、地域住民の声を重ねてお尋ねしたいと思いますが、決して執行権の妨げになることを提案するものではございませんので、市長におかれましては、市長の手腕やお考えを市民が納得し、期待が持てる答弁でまとめていただけることを望んでおりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、この本庁舎関連の質問について、私は過去4回にわたり、防災関連や巖原庁舎耐震関連を含めて質問をしてきたわけでありましたが、今から5年前になりますが、平成29年第4回定例会時に巖原庁舎に設置されている災害対策本部の安全性確保について質問させていただきました。その際、市長から、巖原庁舎の耐震診断を行い、その結果を受けてから耐震補強等の検討をするという答弁がなされております。

また、平成30年第1回定例会には、今後における本市事務所の正式な決定時期についてお尋ねしました。その中で市長は、事務所の位置決定に関する件について、地方自治法第4条を用いて答弁がなされ、同時に市長から、暫定的にでも本庁舎が巖原となった理由と考えられているという答弁がなされております。

また、同会議において、本庁機能方式について、従来からの分庁方式、また本庁集約方式の適否について検討の必要があるともお答えになっております。

市長が将来、思い描く本庁機能のあるべき将来像については、この本庁問題は、市民にとりまして大変重大な問題である。決してこの案件を後々まで残すことはできない。耐震診断の結果が出た後に、任期中に最終決断し、方向性を出したい。その際には、議員皆様にも協力いただく。力強いお言葉もいただきました。

そして、平成31年3月定例会に巖原庁舎が耐震基準をクリアできない結果となった場合にふれた答弁では、この巖原庁舎の機能は維持していくべきと考えていると、このようにも答弁がなされております。

このことを踏まえて、市長の答弁を過去から時系列に簡素にまとめてみましたが、巖原庁舎の耐震調査を行うと。次に、庁舎の耐震の出た結果で建て替え、もしくは補強を検討すると。3つ目として、その結果として、巖原庁舎の方向性について市長が任期中に最終決断をすると、このようにまとめておられます。今までの答弁の内容ですね。

このような流れから、現在、市役所巖原庁舎整備検討委員会が設置され、巖原庁舎の整備方針など方向性について、市民など幅広い意見を反映させるため必要な事項の検討が6人程度の委員

で構成され、令和4年、年2回ほどの委員会が開催されるということは承知しております。

このような背景から、今回は、過去の懸案事項であります対馬市本庁舎建設決定に関する事項の進捗状況について再質疑、再確認したいと思います。

本市も合併より比田勝市長体制で20周年の節目を迎えることとなるわけではありますが、新庁舎建設基金も設立がなされ進んでいることは誰もが知るところでございます。このような節目を迎えるに当たり、一歩進んだ方向性や取組を期待するものであります。

先ほどから申しますように、市長の過去の答弁からも、市民そして議会を巻き込み、早い段階で動きたいとお話がありました。漠然とした中での基金積立てではなく、建設時期をはじめ予定地など節目に当たり、計画するための一歩前進した住民アンケートなどの着手の検討のお考えはないか。既になされている場合はすみませんね。

また、合併時により暫定厳原本庁舎の建設経過手続をはじめ、耐震調査実施からその調査結果まで報告がなされてきたと思っておりますが、その後、何らかの変化、進捗があったのか。

市長が繰り返し答弁されておりました厳原庁舎の耐震調査結果が出てから既に4年が経過しております。私は、いたずらに先送りなされているとは思っていませんが、何か理由でもありましたらお知らせください。

また、分庁舎方式での行政運営についてお伺いいたします。

6町対等での合併で進んできた結果が現在までの運用であると思っておりますが、時間とともに状況は変化するもので、人口流出、過疎化を止めることができない現実を考えたとき、一極集中での行政機能の充実が必要と思うが、現状維持だけではなく常に改革、実行で時代の変化の対応が必要と考えております。

また、2点目の新庁舎建設に向けた取組の財源確保についてですが、冒頭にもお話ししましたが、新庁舎建設に伴う基金積立ては既に着手がなされ、ゴールが明確にされないまま見切りスタートのように見受けられることから、行政運営の見える化の推奨をモットーになされている比田勝市政において、何事も市民を巻き込んでの安心、安全運営をなされているわけでありますので、具体的にこの新庁舎建設に向けて、取組や財源確保の方針など、市民の皆様に分かりやすく説明を求めます。

また、必要に応じて再質問をしたいと思います。いかがでしょうか。よろしく申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。

初めに、定着しつつある分庁舎方式での行政運営の考え方についてでございますが、対馬市は、平成16年3月1日の6町合併から令和6年3月で20周年を迎えます。合併当初は市全体の公平な振興と市民の利便性を考慮し、本庁及び6支所の体制でスタートをいたしました。以後、今

日までの間、組織運営上の問題点や課題解決の検討を行い、数回の組織改編を重ね、現在の組織体制となっています。

議員お尋ねの、現在の本庁機能分散方式における行政運営の在り方については、平成30年3月議会でも答弁しておりますが、庁舎スペースや本庁以外の旧6町の事務所所在地の疲弊を懸念することからの合併協議会における決定事項でございました。

しかしながら、合併20年間で市の人口は約1万2,000人を超えて減少しており、合併当時とは状況が変化しております。また、現本庁舎の耐震化診断においても、新耐震基準を下回っているという結果を受け、厳原庁舎の整備検討を早急に開始する必要があると考えております。

当然、検討に当たっては、市民をはじめ議会の協力、助言をいただきながら進めていくことが重要であると考えておまして、市民代表の方に検討委員会に参画いただくようにしております。

次に、新庁舎建設に向けての取組や財源確保の計画についてでございますが、この件については、先ほども申しましたように、厳原庁舎が新耐震基準の指標を下回っているということから、令和3年6月の定例会において、厳原庁舎整備等に係る内部検討会議を設置し、厳原庁舎の建て替え工事等の対応方針を検討していると申し上げているところであります。

その後、次のステップとして、昨年10月に厳原庁舎整備等検討委員会の委員の公募を実施しており、2名の市民の方から応募がっております。また、より多くの市民の意見をお聞きしたく、各振興部等により推薦していただきました4名の方と各種団体、商工会や社協等であり、各種団体の代表者の委員として予定しております。

庁舎整備等検討委員会設置要綱により、委員数は25名以内としております。この検討委員会の第1回目の開催を3月中旬以降に予定しており、ただいま開催に向け諸準備をしているところであります。

次に、財源の確保についての質問でございますが、厳原庁舎の耐震工事、または建て替え工事を実施する場合、他の庁舎の整備が必要となる場合等、多額の財源が必要となってまいりますことから、令和2年度に庁舎建設整備基金条例を制定しており、この目的といたしましては、市庁舎建設整備の資金に充てるために積み立てるものであります。令和2年度に3億円、令和3年度に5億円の計8億円の基金を積み立てております。また、令和4年度においても、予算の許す範囲内において積み立てる予定であります。

厳原庁舎整備等検討委員会において、本庁機能の集約方式、あるいは分散方式の是非も含め、様々な課題について御検討いただき、その内容をもとといたしまして、厳原庁舎の今後の方向性について、市民及び議員の皆様にお示しできると考えております。

財源におきましても、今後も計画的に基金を積み立ててまいります。また、国の動向を注視しながら財政負担の軽減を図るために有利な補助金、起債の活用を併せて検討してまいります。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。ただいま整備検討委員会の話が出ましたので、市長、ここはつきり教えてください。巖原庁舎だけのものなのか、それとも巖原庁舎整備と本庁を含めた検討させる委員会、どちらですか。それによって質疑の内容が変わりますので。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 対馬市役所巖原庁舎整備等検討委員会設置要綱ということであります。まずここは、巖原庁舎をどのような形で、まず耐震工事でいくのか、それとも建て替えとするのか、それとまた併せまして、この時点で分庁方式、集中方式、ここも併せて検討いただければということをおもっております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、私の質疑を聞いてありますか。巖原庁舎だけなのか、それとも本庁舎を含めてか、どちらかはつきりしてくれませんか。今の話では、私の捉え方では、本庁舎の考えじゃなくて、巖原庁舎だけの話を進めているんですか。それとも後者、もう一点挙げたほうも含んでおるという意味ですか。どちらですかね。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） これは、あくまで巖原庁舎でございますけども、ただし、この巖原庁舎を今、暫定となっている巖原庁舎でございますので、これを暫定を取った上で本庁舎とするのかということも、併せて検討すべきだというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ということは、併せて考えたいということではないんですかね、分かりました。

それでは、先に行きます。少し視点を変えて市長の見解を再度、お伺いしたいと思います。先ほども市長の過去の答弁から、時系列で話をしてきたと思うんですが、一応、そのときの市長の答弁では、地方自治法第4条1項について引用されましたよね。私が言うまでもございませんけども、ルールがありますよね。私は、あくまでも本庁舎を含むと今あったので、その辺を考えながら話をしているつもりですから、少し2項だけを拝読したいと思います。前項の事務所の位置を定める、またはこれを変更するに当たっては、住民の利用に最も便利であるように、交通の事情、他の官公署との関係等について適当な考慮を払わなければならないということは、そのとおりだと認識はしてあると思いますが、またその2項にも、住民の利用に最も便利であるように、交通の事情、他の官公署といういろいろな書き方があるんですが、交通の事情について、

今、話は巖原庁舎と本庁の何かどっちもつかないような話で進んだようにもありますが、やっぱりこの、私が先ほど言いますように、もう5回目ですよ、話をするのに。もうそろそろ本題に入らんと、今回、初めて質疑したように捉えられがちじゃないですか。そうじゃなくて、先ほど2項の、なぜ話したかという、冒頭に説明で暫定的にも巖原になったんだと、市長、自分が答弁しとるんですよ。ということは、そこで認識があったと、私は捉えているんですね。だから、ここをあえて言いました。

それと、いろんな災害とかそういったもろもろが出たときも、もろもろにインフラが遮断されたときは、人力とか人の足とかが大事になってくるから、関係官庁といいますか、機関とは密接といいますか、近い距離でなくてはいけないということも書いてあるじゃないですか。それを考えたとき、一度、合併協の中で巖原も美津島もありますなんて、市長も言われた記憶ありますか。

そういうふうなことを考えながら、もうこの本庁舎建設に関しては、意識的に市長が初当選なされたときから頭の中にあつたと、私は思っているんですよ。

そういう、だから6年がたとうとしていますよね。そういった話がありますので、そろそろ濁らすんじゃないかと、本当の話をしていただけんかなと思っているわけですよ。

と言いますのも、前回は話しましたが、市役所が位置する場所が相当な環境を左右するということは、もう以前も説明したと思うんですよ。そういうところから、この市長が建設財源について30年にも長崎県庁の例えを話されたことを覚えてありますか。このときも県庁と地方の市役所とですか、相反するといいますか、余りにもかけ離れた例えをなされたんですね。そのときに、何ていいますかね、県庁は総工費が195億円かかったと言ってあるんですよ。このときも、私が調べましたら、類似団体の五島も建てているですよ。このときの話をしてくれたほうが、住民は分かりやすかったんじゃないですかということを申し加えておきます。

そこで、せっかくですから、五島市の市役所の話、もう既に御存じと思いますが、人口的にも対馬が少し下回っているぐらいですかね。そういったところとよく比較、検討をどこでもするんですが、ここは、5年ぐらいで新しく建てておりますよね。耐震試験をしてから、スピードが早いと思っておりますが、そういう中で、ここで言いたいのは、市長が県庁の話で、膨大な話するもんですから聞きづらかったの、分かりやすく、五島でも4階建てぐらいの鉄筋コンクリートじゃないですか。それで、190億円はかからんです。22億円しかかかっていないわけですから。これはどこまでかよく分かりませんが、もう少し正確な類似団体を話してもらわんと、そんな膨大なという人もおったから、じゃなくて、分かりやすく例えてもらいたいということを要望しておきたいですよ。

そして、私が言うまでもありませんけども、こういう庁舎を建てる基準、これ総務省が起債許可標準面積算定基準というのは御存じと思いますが、職員1人当たり5.83平米しか要らない

んですよ。基準ですからね、これ以上のもの何もあります。そうなったら、余り膨大な例え過ぎたと、私は思っておりますから、これから話すときは類似のものを話してくれませんか。そしたら市民も分かりやすく捉えられると思いますからね。よろしく願いしておきますよ。

そういったことの流れの中から、本市の場合、現在、試算では本庁集約方式の場合ほどどれくらい床面積が必要なのか。概算もう出とるはずなんですよ。造るか造らんかは別ですよ。それも踏まえて考えておると、今の話じゃったら、私がそう認識しましたので。もうその辺ぐらい出とかんと、もう話がたって5年もたちますので、何もとらんとかという話になってきますから、そこをもう一度考えてください。

それと、最後に、分庁舎方式での行政運営の考え方について、市長は、厳原庁舎の耐震化診断の結果を踏まえてと、いつも話されてきたんです、今まではね。そういう中で、厳原庁舎ができないという基準が出たわけですから、検討すると言って、今現在ですよ。何を検討しよるかよく分からんわけですけども、だから、市長に、今この整備検討委員会というのは10月31日で締め切っているわけじゃないですか。今の話では、議会が終わった頃、第1回目をやりましょうなんて今、説明がありましたけど、本当これやる気があるんですか。1年前ごろ申し込んでおるんですよ。

今、言う、何回もこの話をするんですが、余り聞いてもらっていないんじゃないかなと私自身捉えるんですから、私の被害妄想ですかね。

それともう一点、この庁舎問題について、市長は決して後々まで残すことはできないと、比田勝市政の任期中に方向性を出したい、答弁して約束してあるんですよ、政治家の約束は嘘しか言いませんけども、市長は政治家じゃないんですよ、対馬市の指導家ちゅうたほうがいいですよ、権限があるわけですからね。

そういったことから、もう少し深く話をしたいんですけども、例えば、今あと1年任期がなっこの状態であつたら、どこまでこの1年で任期中に示すんですか。また、考え方として、市長選挙、来年はありますよね。あと4年頑張るといことなんですかね。ここをはっきりしてくれませんか。そしたら、また考え方が違ってきますよ。今これ大事なところですからね。どうでしょうか。よろしく願います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 何点かございました。まず、地方自治法の関係では、既に御承知のとおりでございます。このことについては、そのことによりまして、今後、検討していきますよということで答弁をしております。

それとまた、この3月に、中旬以降に予定をしております、この庁舎整備等の検討委員会においては、大変遅れておりますことについては、おわびをしたいというふうに思います。このこと

について、ある程度、委員等が固まりましたら少しスピードアップしながら進めてまいりたいと思っております。

そしてまた、3点目に、この私の2期の任期中にある程度の方向性は示すということを申し上げてまいりました。確かにこの2期は残るところあと1年でございますけれども、この1年の間にどこまで示せるかということをちょっと私も危惧はしておりますけれども、できる限り頑張っ、その方向性を示したいという思いを持っているところであります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 1年あるのになかなか決意しにくい質疑をしまして申し訳ございませんが、今のスピードでいきますと、1年たっても何もできませんよね。だから、市長どうですか、もう一回頑張ってみてやりますぐらい言ったらいいんじゃないですか。そのくらいないと信用性がないですよ。2期も3期も対馬市を預けようとしているわけですから。そのくらいもってやる事業じゃないんですかね、こういう本庁うんぬんというのはですね。

先ほど、五島の話なぜしたかという、やる気になれば、今でももう8億円積み立てたんでしょ。五島市の並びからいったらそんなにかからんじゃないですか。もう一期市長がやるというなら、1年ずつ5億円すれば20億円になるわけですから。もう少しそういうふうなことをゆっくり考えましょう。

そうして、やっぱりみんなが納得するものをつくっていただかなくちゃ、目的のある基金をしてください、前回も言っています。

今度、機会があつて、長崎県に行ったついでに長崎市役所にも行ってまいりました。19階建ての立派なものでありましたが、長崎市内一望できるんですよ、360度。そして、私が感動したのは、フロアに応接セットみたいなのがたくさんあつて、そこに住民の方が相談員を含めてたくさん出入りがあつていましたよ。あれが本当の市役所の姿かなと思っております。

それを考えたら、さっき執務室の5.7平米というのもその限りじゃないじゃないですか。そういうふうな節目に比田勝市長、いてるんですよ、間違いなく。自分の今まで答弁なされたことが重く受け止めてください。耐震強化がクリアできないところが、今そこで大事な部署を置いているということ、分かってあるんですよ。

以前は、そういう対策室なんか消防長が許可したら消防に移しても、そういう話もしてあつたじゃないですか。そういうふうに、何事も進んでいないということ、今日お話したかったんですよ。だから、何事もなければそれでいいんです。でもやっぱり、物事が動き出して、市長の決意が5年前と変わらんように、私には見えるんですよ。

そういったことから、この件はなぜ今回も話したかということ、新しい年度になるから、新しい



気持ちになってもらいたいし、もう時間もたったということです。

市長、改めて言いますけども、これは市長の答弁をもとに話をしておりますよね。何か違うところがあつたら違うって言ってくださいぬ。

だから、私が勝手につくったことじゃないんですよ、市長が答弁したことです。市長の答弁のポイントが巖原庁舎は残すと言ってあるんですよ。そのときには、なら別に本庁舎建てるんだなって普通考えるんです、言われたら。だから、冒頭に含むんですか、どうなんですか尋ねたんです。

今、市長の話では、巖原庁舎がとりあえずやってみて、何とかなるならそこで、今の体制で行こうかというようにも聞こえるじゃないですか。それじゃなくて、やっぱり分庁システムでやるのが大事なのか、こういう疲弊した中で、人口流出も止められないこの対馬を、一極集中で運営するため合併したんじゃないんですか。そうじゃなかったら何も合併することは要らなかったじゃないですか。そんなことを考えながらの話なんですよ。

だから、この3月の中に検討委員会で前向きな話が出ると、私は思っておりますが、先ほど提案したように、やっぱりもう話が出てから時間がたつので、そろそろ住民も巻き込んでアンケートの一つも取ってみようという考え方にはならないですか、市長、そこを答えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにスピードアップをしなくちゃならないなという気持ちで今いるところでございますけれども、その中で、今、議員おっしゃられるように、合併は一極集中をするための合併ではなかったのかというような御意見だったというふうに思っておりますけども、私は、この合併時にはあくまで最終的にはその一極集中をするとか、そのことについては合併してから議論の上で決定するというようなことで決まっていたというふうに、私は認識をしているところでございます。

それまでの間は、各町を疲弊させないような形での分庁方式を取ることが、合併当時の考え方じゃなかったかなと思っております。

その中で、今、議員おっしゃられるように、市民のアンケート等を早くとるべきじゃないかという御意見でございますけれども、もうそのとおりだと思っております。

そういうことで、今回、この3月中旬以降に委員会等を開催させていただきますけども、この庁舎整備委員会等にもそういったことでいろいろとお諮りもしながら、アンケートの方策につきましても、どのような形でアンケートを進めていくかも併せて検討をしていければというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 誤解があったらいけないので市長、再度言うておきますけど、合併協の中で一極集中をなぜやったのかと尋ねたのは、本庁舎を一つにするという意味じゃないんですよ。6町が合併するということは、司令塔を一つに置くということをやったんじゃないんですかということです。そしてまた、いろんな方と相談しながらと今、言われますけど、あなたは誰と相談、誰と議論するんですか。当時は6人おったから議論しただけですよ。今は、その当時の人たちが駆け込み事業をやったので、市長が苦しんでいっているわけじゃないですか。私の話聞かんですか。

だから、今そういったもろもろを、財源確保するのもずっと抵抗が今まであって市長が来ているわけです、今。やっと比率も元に戻ってスタートしとるという話も聞いておりますから、そういう中で、私とすると、先ほどから言いますように、対馬が一つになった以上は一つでやるべきじゃないかという話をしているだけであって、当時の話がどうやこうやというつもりは何もないんですよ。しかしながら、時間とともに時は流れていっているじゃないですか。だから、市長が自分の時代に、自分の任期中にやるということを信じているわけです、私は支持者の一人として。だから、1年なのか5年なのかって尋ねたんです。それによって、考え方が変わってくるじゃないですか。

だから、市長、いずれにしても市長の時代にはもう逃げられんのですから。だから、そこで先ほど言いますように、市民に分かりやすく答えてくれませんか、市民が分かるように、つくらんならつくらんとはいいいんですよ、別に。つくる人間と交代してもらえばいいだけのことなんです。

そういうふうなことを考えて、責任あることをやっていきたいなと、我々議会も何回も言っているじゃないですか。協力ができることがあったら委員会でもつくってでも、今はこの検討委員会を募集してある、議会より先に外部を優先して、それも大いに結構な話ですよ。ただ、議会でしかこういう公共の電波で話ができないから、もちろんこういった検討委員会も非公開ではなされんしょうから、公開でやるんしょうからね。興味のある人は行けばいいと思っておりますが、その辺も含めて、市長どうでしょうか。もう一度だけ検討委員会は本庁も含めて検討させますということを書いてもらえませんか。どうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、何て申しませうか、これまで巖原庁舎等の整備等検討委員会においても大変、ちょっと開催が遅れていることをまずおわび申し上げたいと思いますし、先ほどから申しておりますように、あくまでこの巖原庁舎整備等の検討委員会は、本庁としての機能も含めた上での検討だということで、できる限り、私もここではっきりといつまでというロードマップを示せば一番いいんですけども、まだそこまではなかなか引けないということで、できる

限り早い、スピードアップをしながらこの庁舎関係については進めてまいりたいということで、これは、今、基金のほうも基金条例をつくって、もう既に8億円は積立てもしているところであり、また、この令和4年度、またいくらかの基金も積立ても可能だというふうに思っておりますので、財政的な面とこの庁舎検討委員会、そしてこれがある程度、進めば、今度、議会のほうにも特別委員会等の設置もお願いしていかなければならないというふうに考えているところであります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、そして最後に、今、基金の話でもう一回お尋ねしておきますが、今8億円ですよ。市長が考えられる市役所のその面積といいますか、さっき職員1人当たりを足して、どのくらいを目標にしてあるんですか、概算でいいですから、どうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 内部等でいろいろと協議を進めた中で、まず今の庁舎面積に、例えば、一極集中方式とした場合、議会とか教育委員会、福祉、全てまとめたときに、概算でも50億円から60億円近くかかるのではなかろうかというようなことでありました。その分、約、そのうちの半分程度は基金を積み立てたいというようなことで、30億円ぐらいは基金として積み立てたいと思っているところであります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。試算は着々となされての答弁だったと思いますが、できるだけ早く目標達成ができるように、いろんな方向でやってもらいたいと思っております。

それでは、最後に一言、市長をはじめに執行部の皆様には、我々議会としましては、質疑した内容を成就するまで、内容が、提案することが成就するまで再三再度、話をするのが議会の使命と思っているわけです。決して私がしつこいわけではないんですね。ここを認識しとってください。

これで終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後2時57分散会

---